



妙たえの光ひかり

復刊125号

夫を看取り泣き続けた3年間

新潟市西区
足立真理子さん(63歳)

「私は27歳で見合い結婚して以来、義父母の身体が不自由だったせいですと同居してきました。義父は私にも周囲にもとても優しいのですが、義母にはありがたうの言葉ひとつない昔気質の男性でした。義母は複雑な家庭の生まれ育ちのせいかととても厳しく、「男は台所に入るな」という言葉もまた古い考えのひとつでした。

養子だった夫は義父母にとっても大事に育てられて、私にも申し分のない優しい人でした。でも私たち夫婦の外出には必ず義母がついてくるのです。しかも目が悪いからと車の助手席に乗るのは義母でした。私は夫よりも生まれた長女よりも義母のお世話の時間が長く、「私は義母と結婚したんだ」と思った時期があったほどです。

そんな義父母を看取り、夫を66歳で亡くしたとき「ママはこれからも頑張るからね」と二人の子どもたちに宣言しました。でも哀しくて涙の涸れることのない3年間でした」と足立さんは話し始めた。

(2ページに続く)



行事案内



お彼岸中日法要

9月23日(土・祝)

- 午前 10時30分 安穩廟法要
- 11時 本堂にて彼岸会中日法要
- 12時 おとき
- 午後 1時 住職法話(コロナ禍前に戻り復活します)
※どなたでも、ゆっくりお参りいただけます。

中野巨陶展

10月18日(木)~22日(日) 京住院

毎年秋の恒例となった中野巨さんの陶芸展です。展示と販売があります。
※詳細は後日ご案内します。



お会式と第21回法号授与式

10月22日(日)

- 午前 9時 法号授与者研修
- 11時 お会式『日蓮聖人第742遠忌』、法号授与式
- 12時 おとき
- 報恩料 3千円(おとき含)
引き続き午後の「浄土講座」にご参加下さい。
※詳細は別紙案内をご覧ください。同封の申込書でお申し込みください。

第10回浄土講座

対談『誰でもなれるお坊さん』

櫻井義秀さん(妙光寺修徒・北海道大学大学院教授)
×
西出勇志さん(共同通信編集委員・宗教担当)

10月22日(日)

- 午後13時30分~15時30分(午前中はお会式です)
- 参加費 500円 ※要事前申し込み
- ※詳細は別紙案内をご覧ください。参加を希望される方は同封の申込書、または電話、FAX、メール等でお申し込みください。

日帰り団体参拝旅行

11月12日(日)

※詳細は別紙案内をご覧ください。同封の申込書でお申し込みください。

あ と が き

本当に暑い夏でした。今夏の「送り盆」ではcobaさんによる「小川なぎささん追悼演奏会」が行われました。自在に響くアコーディオンの音にしばし酔いしれるひと時でした。最後にcobaさんは「元気でいてください!」と私たちに呼びかけました。胸にしみる声でした。秋になります。みなさん元気でお待ちください。
『妙の光』アンケートにもご協力をお願いいたします。
(新倉理恵子)

七五三詣り

11月19日(日)

- 午後2時 受付
- 2時30分 ご祈祷
- ご祈祷料 5千円
お子さん、お孫さんの健やかな成長を願い、七五三のご祈祷をいたします。 ※詳細は別紙案内をご覧ください。同封の申込書でお申し込みください。



合同法事

12月2日(土)

今年、年回忌(法事)が当たっていたけれど都合でできなかったという方のために、合同の年回忌法要を営みます。檀信徒・安穩会員どなたでもお申し込みいただけます。

- 午後 2時 受付
- 2時30分 法要
- 3時30分 銘々で墓参り
- 費用
・塔婆1霊位2千円・お供物共通経費2千円・お布施
- 持物 位牌、墓参用の花、ロウソク、線香

※11月25日までに同封の申込書、または電話、FAX、メール等でお申し込みください。参列は平服でどうぞ。



月例ボランテラ 毎月15日

- 午前9時~11時半・午後1時~3時
堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間に越し下さい。昼食はご持参願います。

月例信行会 毎月第1水曜日

今年度から曜日と時間帯が変わっています。

10月4日(水)、11月1日(水)、12月6日(水)

- 午前9時~11時
お参り、法話、作務、コーヒータイム等があり、交流の輪も広がります。
- 参加費 お志を各自賽銭箱にお願いします。
予約申込み不用。当日直接お寺へ越し下さい。

予 告

(詳細は後日チラシをお送りします)

- ◆奉納演奏会 11月23日(祝)
梶原徹也さん(元THE BLUE HEARTSドラマー)と越王太鼓の皆さん
- ◆第11回 浄土講座 11月26日(日)
講演『人間にとって庭園とは』
巖谷國士さん(仏文学者・明治学院大学名誉教授)
- ◆講演とシンポジウム 12月3日(日)
会場：だいしほくえつホール
「最期は皆おひとりさま どう迎える安心の老いと死」
上野千鶴子さん(東京大学名誉教授)
小川英爾院首(角田山妙光寺) 他

新潟市西区 足立真理子さん

『妙の光』印刷が「縁の始まり

「義父母夫妻は戦後に東京の職場で出会いました。共に文字がきれいだと言働組合のチラシ作りにかかり出されたことが、きっかけだったそうです。それならと義父は故郷新潟に戻り、ガリ版印刷を始めました。蠟を塗った原紙に鉄筆で文字を手書き刻んでいく簡易印刷で、当時の学校や官庁で盛んに使われました。やがて儲かるようになり、母を呼び寄せて小さな印刷会社を起しました。義父は片耳が聞こえず、義母も視力障害があったので、従業員も身体に障害のある人たちを雇うなど他人には思いやりのある夫婦でした」

現院首が20代の頃、僧侶の青年会で機関誌担当を引継ぎ先輩の紹介で、印刷を依頼したのがこの会社だった。その後本誌『妙の光』発行を計画した折に相談に行った。とても親身に助言を頂いて以来、お付き合いは30年に及んだ。

「経済成長の時代は会社も順調でした。『妙の光』印刷のお仕事を頂いて原稿を拝見しているうちに、義父母夫婦は『安穩廟』にお世話になろうと決めたそうです。

義母が会社の経理を担当したのですが、文字の小さい給与明細が書けないため、当時学生だった夫が毎月末東京から戻って手伝ったそうです。そんな状態ですから卒業後は彼なりの夢も諦め、実家に戻り会社の跡継ぎになりました。」

寺を訪ねて来て「父が病床で自分の葬儀とお墓を『安穩廟』にお願いしたいと言っています」と話した。そして間もなく義父の葬儀となり、後に埋葬された。「義父亡き後、義母から、妙光寺さんが困っているから、長年掛けてきたこの保険金で本堂の四菩薩像の一体を寄付したい」と相談がありました。苦勞人ですから信仰心も篤い人でした。私たちも大賛成で、後々も本堂に良かったねと話していました。その義母も、11年後に亡くなり『安穩廟』に埋葬されました」

がんで会社を閉めて闘病の夫

「夫が会社を引継いでから、世の中はパソコン、コピー機が普及し印刷会社の仕事は目に見えて減りました。どうやって会社を閉めるか、そのためにどう借金を減らすか。でも毎月5〜6人分の給料は必要です。そんなことばかり考える毎日でした。そのストレスが大きかったんでしょね、夫は62歳の5月に末期の大腸がんが見つかりました。それから僅か3ヶ月で社員に説明して辞めてもらい、全てのお客様を信頼できる会社に紹介し、土地を売るなど残務整理を終えました。

新潟の病院では手の施しようがないと言われましたが、友人の勧めで行った東京の病院の薬が効いてがんが縮小し手術もできました。一時は全てのがんが消えたんです。それからというものの好きな登山は無理でしたが、家族で温泉に行ったり、同窓会の幹事を務めたり、思う存分

クラシック音楽を聴いていました。念願だった夫婦のウイーン旅行でモーツァルトの足跡を訪ねたときは、もう最高！何も思い残すことはない」とまで言ってお機嫌でした。

立き続けた3年間

―飼った猫と境内にいやされて

「葬儀はコロナ禍前でしたから同窓会の皆さんが大勢集まってくれました。その中に夫だけがない寂しさはありましたが、本堂にありがたいことでした。ところがその後、私は義父母の世話や会社の仕事に追われて夫と十分な会話がなかった。夫の優しさに甘えて本心を聞き出さなかつた。もともとと話をすれば良かったという後悔が生まれてきて、うつ病のようにになりました。気持ちの浮き沈みと言いますが、浮きがないんです。意欲も出ません。本堂にもがき苦しみ、毎日泣いてばかりいました。」



奉納された本堂の四菩薩像

そんなとき、飼った猫のチャコが寝室から一番遠い玄関にある夫のスリッパを咥えてきてベッドの上の私の脇に置くんです。一生懸命咥えてくるからよだれでベトベトです。そして私が寝付くまで隣の椅子の上で丸まっていた、気がつくとも自分のねぐらに帰っていました。一ヶ月以上も毎日です。私になつて入り込んできた野良猫で、生前に夫が2匹も3匹もいっしょだから飼おうよと言った猫です。感動しました

それと救われたのがお寺の境内です。

生前2人でよく義父母のお墓参りを兼ねて尋ねたものです。夫は、山の木々が良いよね」と言っていました。それを思い出して私もひとり度々お参りにうかがいました。嫁いだ娘もよく行っているそうです。無性に行きたいーそんな気持ちになるんです。

亡くなって3年が過ぎたら、心も身体も楽になった感じがします。いっぱい泣いたせいでしょか。いまは近くの老人施設に朝食作りのお仕事があり、朝4時に起きて出かけます。落ち込んでいてもしょうがない。生かしてもらっている分、他人のために力になりたいって思えるようになってきました。ボランティアを始めようか。でもまだ人との接触は苦手。そしたら同居の息子が、おれと一緒に海岸のゴミ拾いしようよと言ってくれています。人間って強くなれるものなんですね」

真理子さんは、笑顔で語られた。

(院首記)

とうとう私も…

8月1日の施餓鬼法要が終わった夜、酷い頭痛と寒気に襲われました。「もしや……」と思ひ、深夜に熱を測ると38度2分程ありました。翌日の棚経を院首さんに代わってもらい、朝一番に病院で診察を受けたところ、コロナの陽性が判明しました。昨年の、送り盆、直前の体調不良時の検査は陰性でした。気を付けていたつもりでしたが、あぁとうとう罹ってしまったか……と愕然としました。高熱が続いたのは4、5日でしたが大事を取って10日間隔離生活を送りました。棚経の日程変更などで迷惑をおかけしました皆様には申し訳ございません。

過酷な夏でした

今夏の新潟はまとまった雨が1カ月に上降らないなど、例年以上に暑い日々でした。今年から夏期はお寺での法事を、原則としてエアコンの効く京住院で行うことにしましたが、大正解だったと思いません。屋内に座っているだけでも汗だくなる気温で、毎日お参りの方の熱中症を心配しない日はありませんでした。まだまだ残暑が続きますので、皆様お気を

つけてお過ごしください。

傷跡の残るピアノが全国各地を

さて、そんな過酷な夏を過ごし、私が今年一番「頑張りすぎです」と思った相手がいいます。それは、ある一人のひとと1台のピアノです。7月26日、まきおやご劇場さん主催の『被爆ピアノと歌う平和コンサート』が妙光寺で行われました。「被爆ピアノ」は、広島や長崎で原爆の爆風や熱線を受けたながらも奇跡的に残ったピアノです。今回のコンサートで演奏されたのは、調律師で被爆二世の矢川光則さんが所持する一台です。矢川さんは、「被爆ピアノ」とともに全国各地を旅して、戦争の悲惨さと

平和の尊さを伝える活動を続けておられます。今年の7月は新潟県内を2週間かけて巡り、20か所以上の学校やお寺などで演奏会が催されました。2週間で20か所以上……1日2か所以上行かなければ計算が合いません。ピアノの搬入と搬出だけでも

大仕事ですが、矢川さんは自ら大型トラックを運転し、日本中を回っているとおうかがいしました。本当に感服した次第です。

「被爆ピアノ」を近くで拝見すると、原爆被害に遭った当時の傷跡が残っています。私には、ピアノは空調の整った屋内で大切に弾かれる楽器で持ち運んだりするものではない、というイメージがありました。しかし今回妙光寺では、屋外の院庭で演奏していただきました。「被爆ピアノ」は場所を選ぶことなく音色を響かせています。傷ついているからこそ、出来ることがあるのだと感じ入りました。そして1日も早く「核なき世界」が実現することを願わずにいられませんでした。

安 穩

小川良恵



被爆ピアノ



妙光寺で演奏された被爆ピアノ

◆岩屋七面様祭礼 8月19日



本堂法要でのご祈祷。



岩屋への移動。



岩屋での法要

◆万灯のあかり～妙光寺の送り盆で追悼演奏会 8月26日

境内墓地全ての埋葬者への最後のお盆行事。折しも縁ある方により78年前の“広島原爆の残り火”が妙光寺に届けられました。法要で亡き人に思いをよせ、戦争犠牲者を悼み、今を生きる世界の人々の幸せと平和を祈りました。



原爆の残り火を住職が御宝前で採火。



墓地に灯りを運び、各所で法要を営みました。



法要後アコーディオニスト coba(コバ)さんによる、3年前に亡くなられた住職の母小川なぎささん、そして全ての精霊を追悼する演奏会が開かれ、心に染みる音色が院庭に響きました。



月明かりのもと、墓地の随所には送り火が灯されました。



皆様から奉納された300基の灯籠すべてに平和を祈る火が灯り、それぞれのメッセージが浮かび上がりました。



寺のうごき



◆お盆法要 8月1日、6日、11日

今年から暑さと混雑を避けて、8月1日に施餓鬼法要と墓前読経、6日に新盆法要、11日に2回目の墓前読経と分散して行いました。



本堂での施餓鬼法要後の住職挨拶。



炎天下での墓前読経。



墓地にはたくさんの香華燈明がお供えされました。



院庭では“かき氷”に人気が集まりました。



冷房の効いた講堂で、冷たい抹茶が振る舞われました。

キツネノカミソリ

猛暑による雨不足でキツネノカミソリが十分に咲きませんでした。逆に華が少ないせいか蝶々が沢山集まり、飛びまわる光景にみなさんも喜んでいました。



新盆法要は暑さを避けて、冷房の効いた京住院で5回に分けて行いました。

小川なぎささん追悼演奏会

亡き人の思い出とともに、みんなの幸せを願う調べへ

8月26日①「送り盆」では、世界的なアコーディオニスト・coba（コバ）さんによる

小川なぎささん追悼演奏会が、行われました。

院首夫人なぎささんは生前、同級生のcobaさんの活躍をいつも楽しそうに語っていました。

演奏会へはコロナ禍で2年間延期され、ようやく今夏実現しました。

夏の終わりの院庭には百五十人の聴衆が集いました。最前列で、なぎささんの遺影も耳を澄ましています。

cobaさんはなぎささんの思い出を語りながら、

デビュー曲『SARA』や最新アルバム『明日に架ける夢』など力強く楽しく演奏してくださいました。

アンコールの『上を向いて歩こう』は、なぎささんに捧げられました。

cobaさんが時に天を仰ぎながら奏でるアコーディオンの音は、温かく境内に響きました。



coba
1959年生まれ。3歳から14歳までを新潟市で過ごす。18歳でイタリアに留学。ベネツィアのルチアーノファンチェルリ音楽院在学中に世界的コンクールで優勝し、同音楽院を首席で卒業した。22歳で帰国後は、作曲や演奏など多方面にわたり日本だけでなく世界で活躍している。アコーディオンのイメージを変えた音楽家である。最新アルバム『サムライアコーディオン』を昨秋リリース。

ました。でも僕はやる気はありませんでした。ステテコ姿で演奏する父の姿がキライでしたし、演奏もお世辞にも上手とは言えなかった。

Q お父様はアコーディオンを弾けとはおっしゃらなかったのですか？

coba 小4になった10歳の誕生日、4月29日に父がアコーディオンを買ってくれました。親子で合奏したいと思っていたのかもしれませんが、一方僕は「こんなカッコ悪い楽器はやりたくない」と思っていたので、それから10月まで触ることもなく一度もケースを開けませんでした。

Q 半年間アコーディオンには触らなかつたわけですね。

coba ところが10月のある金曜日に、担任の先生に呼ばれました。「月曜日に先生方での発表をする。生徒に内緒で今まで練習してきた、サプライズで発表するけれど、君に伴奏してもらいたい」と言うんです。「朝礼時に校庭で唄うのでピアノの準備はできない。何か他の楽器でやってほしい」先生はギターが弾けたので「ギターでいいじゃないですか」と言うたら、曲目がタークダックスの『アンジェリータ』と岸洋子の『希望』だと。それではギターでは無理だから、ということでした。

Q なぎささんとは同級生と聞いていますか？

coba 小学校から中学校まで一緒に、中学1年の時は同じクラスでした。なぎささんはしゃしゃり出るタイプではないけれど、積極的に責任感が強い人でした。演奏会でもお話しした。*「検便」のエピソードでもわかるような正義感の強い人でした。

*なぎささんとcobaさんが中1の時、クラスのいたずらっ子が友達を「検便」の箱を投げて遊んでいた



送り盆での追悼演奏会

部屋に置いてあったアコーディオンのケースを初めて開けることになりました。

Q でもアコーディオンって結構難しいですね。

coba そうなんです。右手の鍵盤は何とかなりますが左には謎のボタンがあるし、何より蛇腹を動かさないと音が出ません。でも胸元で音が鳴った瞬間、体に衝撃が走りました。まるで胸に抱いた子犬がクワンと声を出したような。今までにない異質な体験でした。凄いな。楽器だなーと本当に感動しました。身近にいた子が実はとてもキレイだったことに突然気づいたような感じでした。一人夢中で練習しました。何しろ土日の2日間しかないで必死でした。

Q 記念すべきアコーディオン初演奏はいかがでしたか？

coba ところがみんなの反応が悪いんです。結局その当時のアコーディオンは「どの

Q cobaさんは何故アコーディオンに取組むことになったのですか？

coba 3歳で新潟に来て、両親が私にピアノを習わせました。その先生が先進的な音楽教育をしていて、3歳の僕に「詩を書いてもらいな」と言う方でした。そして翌週にはそ

ところ中身がこぼれ出てしまった。大騒ぎの中、なぎささんがためらいなくつかんで箱に戻し「あんなたち、やめなさいよ」と喝したというエピソード。

Q どの曲に習いに行かれたりしたのですか？

coba 誰にも習えませんが、当時、日本にはアコーディオンの指導者はほとんどいませんでした。自分で曲をアレンジしたりしながら弾いていました。

Q どこかに習いに行かれたりしたのですか？

coba 誰にも習えませんが、当時、日本にはアコーディオンの指導者はほとんどいませんでした。自分で曲をアレンジしたりしながら弾いていました。

Q それでイタリア留学をするようになったのですか？

coba 私も初めはまず芸大に入ってから海外に行こうと思っていました。でも17歳の時に山本直純さんが音楽を担当したお芝居に、アコーディオンが弾ける学生の役で出演して、そこで山本さんに「芸大に行つて留学したい」と話したら「楽器は1秒でも早くやった方がいい。大学なんかいいから、今すぐ留学しなさい」と強く言われました。それでイタリアに行き、音楽院のアコーディオン科に入学しました。

Q 本場の音楽院はいかがでしたか？

coba 山本さんの仰ったことが本場だというのは、すぐにわかりました。ヨーロッパの音楽院には7、8歳くらいの子もいます。子どもでも素晴らしい演奏をするし、レベルが違う上に意識や目線も違う。今までの遅れを取り戻すために、毎日12時間以上は練習しました。

Q イタリアにはアコーディオン専門の指導者もいらつしやるのですか？

coba 素晴らしい出逢いがありました。私

Q ではアコーディオンとの出会いは？

coba 実は父がアコーディオンを弾くのが趣味で、家でよくシャンソンやタンゴを弾いて

の恩師は、エリオボスケツロという方ですが「これから君には個人レッスンをやるから」と言うて厳しく指導されました。やはり何事も「師匠」が本当に大切です。上手くなる時、努力に従って右肩上がりに上達することはありません。必ずスランプに陥ります。そのスランプは永遠に続くようにも思えるし、時には下手になつていくようにすら感じます。でも毎日地まぬ努力をしていると、ある日突然上達している。私はこれを「日々業」と言っています。ただその毎日の努力というのは「間違っていないやり方」でやらなくてはなりません。だから「師匠」が大切なんです。

Q 「間違っていない」練習の仕方を教えてくれる方が「師匠」ですね。

coba そうです。だから私は10歳でアコーディオンに出会った後、誰にも教わらずに一人で弾いていたのは良かったとも思っています。そこで中途半端な人の指導を受けていたら、今は弾いていないかもしれない。山本先生やボスケツロ先生に出逢ったからこそ、今の私があります。ウーンでの世界コンクールで1位になつて日本に帰国し、「東洋人初優勝」と新聞に載りました。すると山本直純先生はちゃんと覚えていてくださつて、先生の出演されるテレビ番組「オーケストラがやってきた」に声をかけていただきました。山本先生も私の「師匠」です。先生への恩返しは、もはやできない、だから後輩に返していこうという想いで努力しています。

Q 還暦を超えて、肉体的にはかなり大変ではないですか？

coba アコーディオンは左手に腕力を使うので左には筋肉が付きませんが、右手に腕力は必要ない。だからどうしてもバランスが悪くなる

Q 15キロですか。それはすごい！

coba 50代まではがむしゃらに仕事をしてきましたが、今は少し落ち着いてやると本当にやりたいことができるようになりました。だから健康を大事にしたい。健康でないとインスピレーションも湧きませんからね。

Q これからやりたいお仕事について、どんなことですか？

coba 9月3日に宮崎県日向市で『運命のレシビ』という舞台をやります。私のプロデュースで数年前から企画している舞台です。音楽ありダンスあり、地元ひょうとこ踊りやパレエダンサーともコラボします。イタリア料理の落合務さん達5人のシェフにも舞台に立つていただいて、最後は観客のみさんにもパスタを食べさせていただくという世界どこにも無い趣向の舞台です。

Q 落合シェフまで舞台に登場して、最後はみんなで食べるのですか？

coba すべては「表現」だと思います。音楽もダンスも料理もすべて「表現」で、僕にとつてアコーディオンはその道具、方法にすぎない。みんなが幸せになるための「表現」に取り組んでいきたいと考えています。

「みんなの幸せのために」は、なぎささんの生き方と同じですね。素晴らしい演奏と楽しいお話を、ありがとうございました。

(聴いた人 編集部 新倉理恵子)



法華経があれば、そこが道場

によらいじんりきほんだいにじゅういち
『如来神力品第二十一』

託すことの重要性・誓いを立てた者たちへの称賛が説かれるのでしよう。『如来神力品』は、自らを地涌の菩薩であるとしていた日蓮聖人にとっても特別な意味を持ちました。

私たちが生きる場所こそ修行の場

付嘱が終わると、お釈迦様は、法華経を安置する場所を見つけ、仏塔を立てて供養をすれば、どんな場所であっても道場であることを説かれました。一つの解釈は私たちが生きているこの場所こそが、修行の場であり、日々一生懸命仏様の教えを学び実践することが大切であること。また、法華経をたもつことで時間や空間を超越した世界で、数多の仏様たちを供養し喜ばせることがかなうことを説いています。

し、全身の毛穴という毛穴から光を放って、全宇宙を照らすという力です。呼応したように、遠く離れた別の世界にいる幾人もの仏様も長い舌をだし、全身から光を放ちました。不思議な力は千年にも渡って続きました。最後に仏様全員が舌を仕舞って咳払いをし、指を鳴らした時には、大地が大きく揺れました。こうして全世界はお互いを認識して、自由に交流さえ出来るようになりました。

大神力でも表せない法華経の功德

このとんでもない神力が『如来神力品』のタイトルの由来ですが、お釈迦様はさらにこのような神通力であっても、法華経の功德を全て説くことは出来ないと言っています。だからこそ、後に続く者たちに布教を

この章から最後の『普賢菩薩勸発品第二十八』までの8つの章には、「付嘱流通」が説かれています。付は付与すること、嘱は嘱託すること。付嘱とは、仏教では師が弟子に伝道を託すことと捉えれば分かりやすいでしょうか。流通はその教えがどのように弘められていくかを表します。

お釈迦様が示す大神力

まず章のはじめに地涌の菩薩が、「私たちは、多くの者たちに法華経の教えを説き弘め、自身の修行とします」と誓いを立てます。すると、お釈迦様は地涌の菩薩をはじめ、その場集った大勢の修行者の前で素晴らしい神通力を発揮されました。

それは天高く届くほど長い舌を出



角田山妙光寺インフォメーション



移転墓地が好評です

山側墓地の土砂崩落による危険回避のため、題目堂前の墓地を増設して関係者には移転して頂きました。本堂からやや遠くなるために駐車場も新設し、高齢者が歩きやすいと大変好評です。10月くらいには植栽も行いますので、更に景観が一変します。

墓地に余裕があり、外部の集落墓地等から移転して来た方もおられます。ご希望の方はお問い合わせください。

安穩廟増設受付中

池の上安穩廟も最後の増設区画112区画が完成し、20件が受付済みです。こちらも駐車場と水屋を増設しました。ご利用ください。

無縁墳墓の改葬手続き

山側墓地移転にあわせて残った所有者不明墓(いわゆる無縁墳墓)の改葬を、来年4月以降に計画しています。官報への掲載と看板による広告な

ど、法的手続きが進行中です。

猛暑被害

今年夏の猛暑は異常で、墓地や境内の樹木が枯れる被害が甚大です。とても給水が追いつかず、秋以降になる植え替え等の対策も頭の痛い問題です。



秋の行事

別紙ご案内の通り、お彼岸後にはお会式、受戒会、浄土講座(2回予定)、日帰り団体参拝等、たくさん計画があります。後ほどのご案内になる場合もあります。

年会費等口座引落しの方

10月27日に口座引落としさせていただきましたので、残金のご確認をお願いいたします。通帳記載で領収書の発行に代えさせていただきますのでご了承ください。

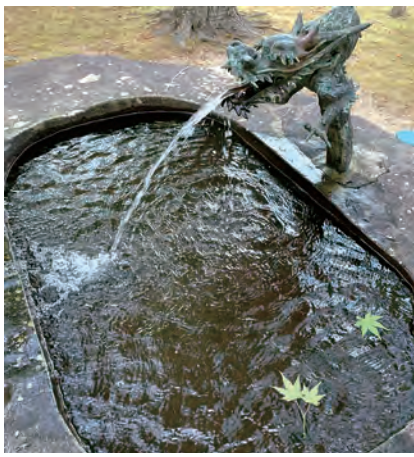


浄土基金報告

前号でお願いした浄土基金に沢山のご協力を頂きました。8月25日現在の今年度入金分合計で、171件1,453,000円です。岩屋の防犯カメラ新設・屋内型消火設備増設・京住院エアコン機器入替他の費用に充当

手水舎の水が常時出ます

山門前の参道脇に参拝者が手を洗う手水舎がありますが、水道水のため行事の日しか水が出せませんでした。この度沢の上流で取水して簡易濾過した水をパイプで繋ぎましたので、常時水が流れます。沢水ですから手を洗うだけにして、口には含まないでください。屋根が掛けられると良いのですが、費用もかかるので当面は見通せません。



『妙の光』アンケートにご協力ください



妙光寺寺報『妙の光』が1991年に復刊して以来
今回で32年、125号になりました。

先々代住職が昭和20年代に創刊してから70年余り通刊150号です

みなさんのご協力で迎えた通刊150号

この間大きさと内容が変わり、全頁カラー化しましたが、制作経費はあまり増えていません。編集を安穩檀徒の新倉理恵子さん、デザインを加茂香代子さんがボランティアで担当。印刷も『信心+』で紹介した経緯で現在は足立プリントさんから引き継いだ(株)ウィザップさんに比較的安価で行っていただいているおかげです。近在檀徒のみなさんには、役員さんが直接配布して下さるので大変助かっています。しかし郵送経費の値上がりは厳しく、そのたびに対策を考えています。

これからも初心を守って発行します

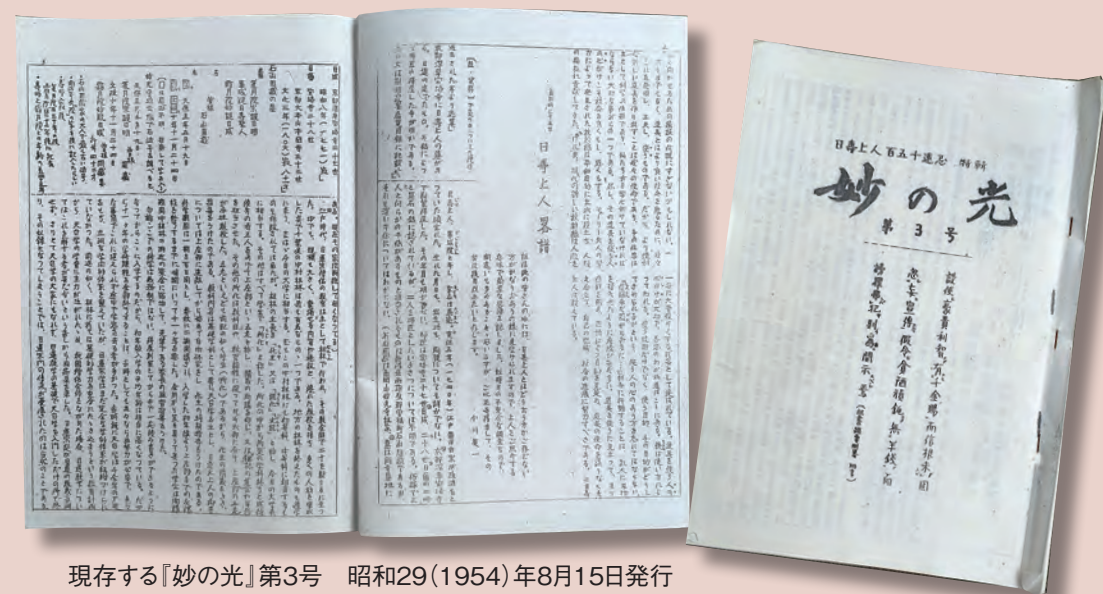
本誌の目的は法華経の教えを伝え、妙光寺の状況と行事のお知らせをすることがその中心です。さらに遠隔地檀信徒の方々の安否と現住所の確認という

大きな役割があります。転居先不明で返送されるとお話し、ときには直接訪問して所在の確認を行っています。ですから本誌を廃止するとか、昨今のSNSに移行する等の計画はありません。

新しい『妙の光』のために

一方で、速報性を高めるためにも SNS のさらなる活用も考えないわけにはいきませんし、住職交代から5年以上が経過し内容の刷新も検討する時期にさしかかっています。発行回数の変更(増ページにして回数減、はがきにして回数増)の案も出ています。つきましては、読者である檀信徒の皆様がどのように受けとめておられるのかを、調査させていただきたいと存じます。

アンケート用紙を同封いたしました。どうぞ忌憚のないご意見を賜りたく、ご協力の程お願い申し上げます。



現存する『妙の光』第3号 昭和29(1954)年8月15日発行
先々代住職が自身で謄写版印刷(ガリ版刷)したもの



本成寺の赤門



Q 妙光寺と本成寺(三条市)はどのような関係がありますか?

節分の鬼踊りで有名な新潟県三条市の本成寺は、法華宗陣門流の総本山です。宗派は違いますが、妙光寺とは開山上人が同じという深いご縁があります。開山上人とは寺院を創始した僧侶のことです。妙光寺と本成寺は共に、日蓮聖人の孫弟子である摩訶一阿闍梨日印上人によって開かれました。

文永元年(1264年)、越後の国に生まれた日印上人は、幼い頃から聡明で、石瀬(現在の弥彦と岩室の中間の集落)の青龍寺で仏門に入りました。一説には、この頃、寺泊から佐渡に向かう途中の日蓮聖人に出会った、とも伝わっています。成長した日印上人は、さらに仏教を深く修めようと、奈良の寺社や比叡山延暦寺に遊学しました。その帰途、鎌倉に立ち寄ったところ、日朗上人(日蓮聖人の六大弟子の一人)が『摩訶止観第一』(仏教の理論書)を講義するのを聞き、改宗して弟子入りしました。文保2年(1318

年)には、諸宗派との問答にことごとく勝利して、鎌倉での布教を許された逸話が残されているように、弁説巧みな方だったようです。

日印上人は、故郷である越後をはじめ各地に法華経の教えを弘めるため、尽力されました。永仁5(1297)年白い牛の引く車にお経を乗せた旅の途中、あるところで牛が止まって座り込んでしまいました。そこは青い蓮の花が咲く美しい場所だったようで、深く感動した日印上人はこの地にお寺を建立しました。後に青蓮華寺と名付けられて信仰を集め、現在の本成寺の基となりました。その16年後の正和2(1313)年、日印上人は日蓮聖人ゆかりの地角田浜に三カ寺を開きました。その一つが現在の妙光寺です。妙光寺本堂のご本尊は、本成寺の釈迦牟尼仏像をモデルにして平成13(2001)年に造立したものです。

※11月12日(日)本成寺への「日帰り団体参拝旅行」を計画しております。詳細は別紙チラシをご覧ください。